

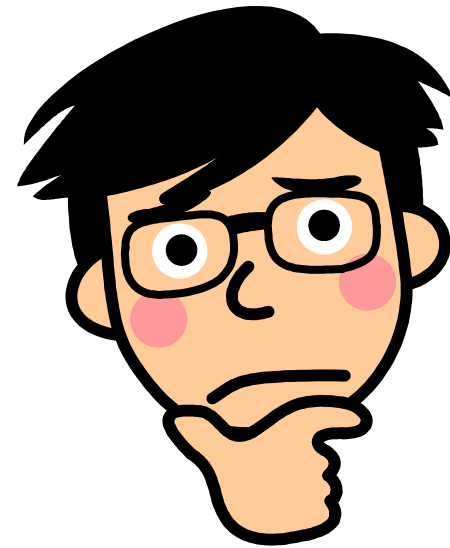
臨床共通科目
「教科等の実践的な指導方法の実践と課題」

文学教材の語りの分析と学習案

担当 松本 修先生
担当グループ 4班
江口 利彦 内田 祐介
竹内 智光 福島 繁喜
山川 奈津子

現場で聞かれる多くの声・・・

「国語ってさ、何教えたらいいかよく分からないよねえ・・・。」



教師用指導書に書か「NO!!」から、「劇」をしたり、「朗読発表会」をした「NO!!」をしたり・・・。

「お手紙」などの「NO!!」えることでもありません！

その活動を通して、教材を使って、

「何を学ばせるのか」が大切！

例：第3学年及び第4学年「読むこと」領域の目標

目的に応じ**内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたり**しながら読む能力を身につけさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。



いろいろな本や文章を分析的に読み、**内容の中心をとらえる**

読む能力の育成

段落相互の関係を考えて全体の構成を把握し、自分の考えをまとめる

どのようにすれば、育成されるのか。

読む能力の育成

内容(2)ア物語や詩を読み、感想を述べ合うこと

- ・感想がどの叙述に基づいているのか。
- ・自分の経験、普段考えていることや関心のあることとどのように関連しているか。

自分の読み・感想

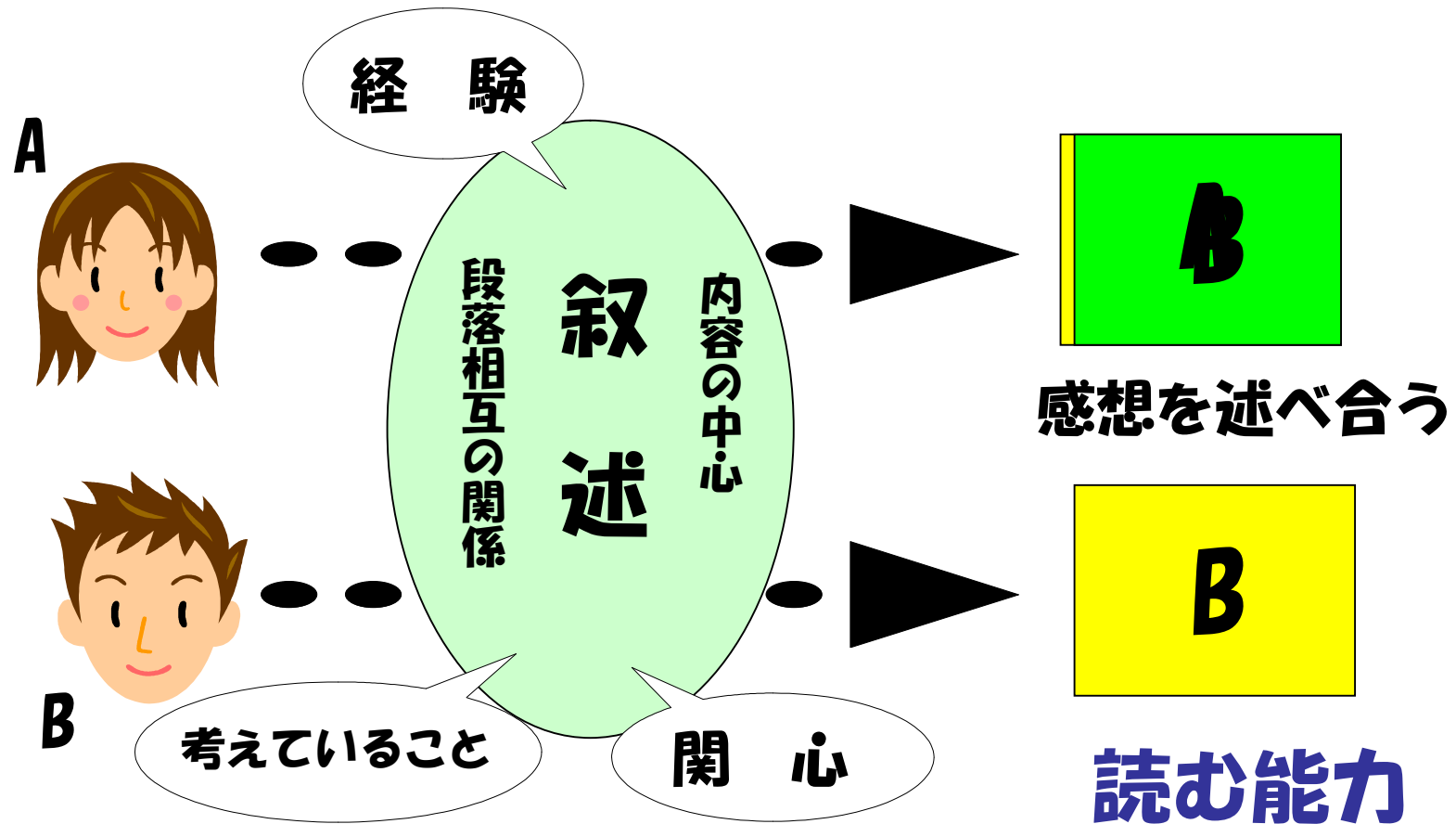


- ・自分の感想が、友達の感想と比べてどのような**特徴**を持つのかを

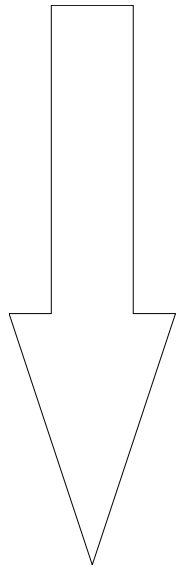
認識すること

読む能力の育成

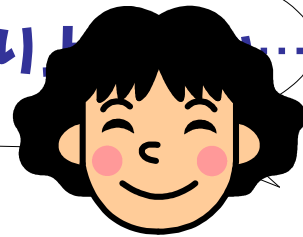
つまり...



読みの多様性を保証できる



どこを取り... ..



ここがいわ!



物語の「語り」を分析すると...

「物語に出てくる人物の語り」と考える



様々な読みが生まれるポイント^①を把握

「語り手」の「語り」と考える



読む能力の育成

授業で取り上げる

では、実際の教材を使ってみま しょう

「モチモチの木」

斎藤 隆介 作

音読

福島	繁喜
内田	祐介
竹内	智光
江口	利彦

がんばってん！



まずは大きく！～マクロ構造をとらえよう～

例 1

- ・主な作中人物「豆太」・・・三人称
- ・他の人物「じさま」「豆太のおとう」「医者様」
・・・すべて三人称
- ・「まったく豆太ほど」「もう五つにもなったんだから」
など

価 **豆太に寄り添う別人格の語り手** ... 豆太について評

「ぬらされちまう」など人格性

別な人は・・・

例2

- ・主な作中人物「豆太」を一人称ととらえる
- ・他の人物「じさま」「豆太のおとう」「医者様」
・・・すべて三人称
- ・「うまいんだ」「おどかさんだ」など、豆太の感覚・感情を表現している

語り手は、豆太

別な視点から見ると・・・

例 1

- ・「おくびょう豆太」までは、「」が改行されずに使われている。
- ・「おくびょう豆太」では、語尾が非タ系列
→物語内容と時間が一致しない
※タ系列(ex.した、だった)・・・完成・過去など
非タ系列(ex.だ、である)・・・説明・判断など

「おくびょう豆太」までは、語り手の解説、または豆太の回想

こんなふうに考えること も・・・

例2

- ・「やい木い」までは、語尾が非タ系列
- ・じさまが**言った**・・・初めてのタ系列（過去）
→物語の現在と語りの現在の一致
- ・**その**モチモチの木・・・
→「その」は、「やい木い」まで

「やい木い」までは、語り手の解説、または豆太の回想

これらをふまえて「モチモチの木」を分析してみます。

誰が語っているでしょうか。

- 14「やい木い、モチモチの木い！ 実い落とせえ！」
なんて、昼間は木の下に立って、かた足で足
ぶみして、いばってさいそくしたりするくせに、
夜になると豆太は、もうだめなんだ。
- 15 木がおこって、両手で、「おばけえー！」って、
上からおどかすんだ。
- 16 夜のモチモチの木は、そっちを見ただけで、も
うしょんべんなんか出なくなっちまう。

では、「モチモチの木」を分析してみましょう！

語り手による語り

14「やい木い、モチモチの木い！ 実い落とせえ！」

なんて、昼間は木の下に立って、かた足で足ぶみして、いばってさいそくしたりするくせに、夜になると豆太は、もうだめなんだ。

15 木がおこって、両手で、「おばけえー！」って、上からおどかさんだ。

16 夜のモチモチの木は、そっちを見ただけで、もうしょんべんなんか出なくなっちまう。

でも、こんな読み方も・・・

語り手は、豆太と語り手

14「やい木い、モチモチの木い！ 実い落とせえ！」

なんて、昼間は木の下に立って、かた足で足ぶみして、いばってさいそくしたりするくせに、夜になると豆太は、もうだめなんだ。

15 木がおこって、両手で、「おばけえー！」って、上からおどかさんだ。

16 夜のモチモチの木は、そっちを見ただけで、もうしょんべんなんか出なくなっちゃう。

さらに、同じ文章でも・・・

語り手は豆太

14「やい木い、モチモチの木い！実い落とせえ！」

なんて、昼間は木の下に立って、かた足で足ぶみして、いばってさいそくしたりするくせに、夜になると豆太は、もうだめなんだ。

15 木がおこって、両手で、「おばけえー！」って、上からおどかさんだ。

16 夜のモチモチの木は、そっちを見ただけで、もうしょんべんなんか出なくなっちまう。

語りのを分析することで、このような読みをする子どもがいるであろうと考えます。

どうして自分がそう読んだのか。

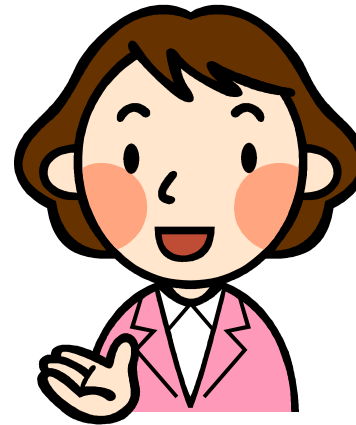
相手はなぜ違うのか。

違いはどこから生まれてくるのか。

読み・感想の交流

読む能力

そこで提案！



**「モクモクの木」に、さし絵を
つけてみましょう！**

**次の文章にぴったりの
さし絵をつけてください。**

44外はすごい星で、月も出ていた。

45とうげの下りの坂道は、一面の真っ白いしもで、雪

みたいだった。 **語い**を分析練習

46しもが足にかみついた。・ **誰の語い？**

47足からは血が出た。・ **どこからそう考えた？**

48豆太はなきなき走った。

49いたくて、さむくて、こわかったからなあ。

まずは、語り手による語り

44外はすごい星で、月も出ていた。

45とうげの下りの坂道は、一面の真っ白いし
もで、雪みたいだった。

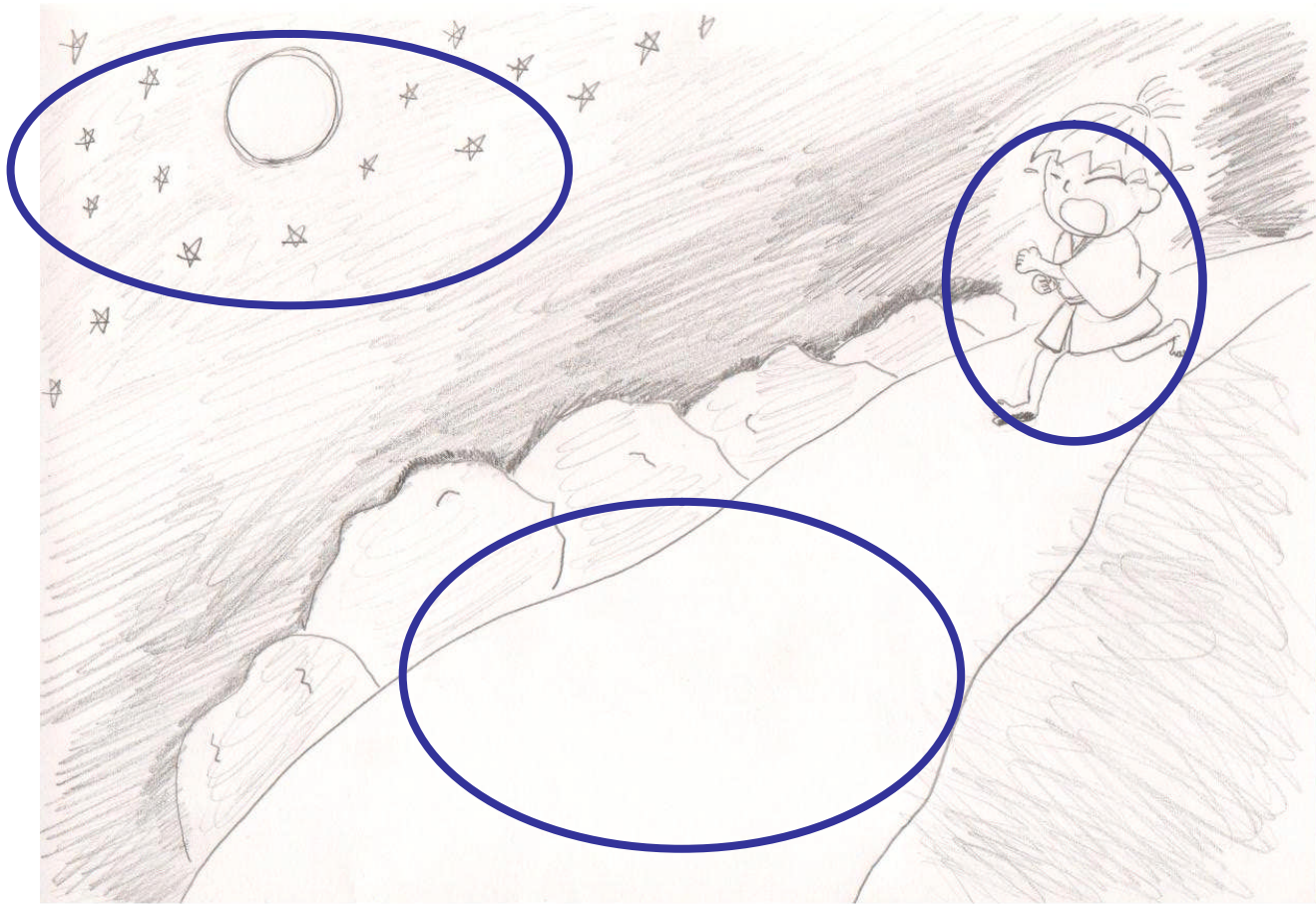
46しもが足にかみついた。

47足からは血が出た。

48豆太はなきなき走った。

49いたくて、さむくて、こわかったからなあ。

語り手が語っていると考える人のさし絵



語り手が豆太によりそいながら語っている！

豆太による語りと考えると...

44外はすごい星で、月も出ていた。

45とうげの下りの坂道は、一面の真っ白いし
もで、雪みたいだった。

46しもが足にかみついた。

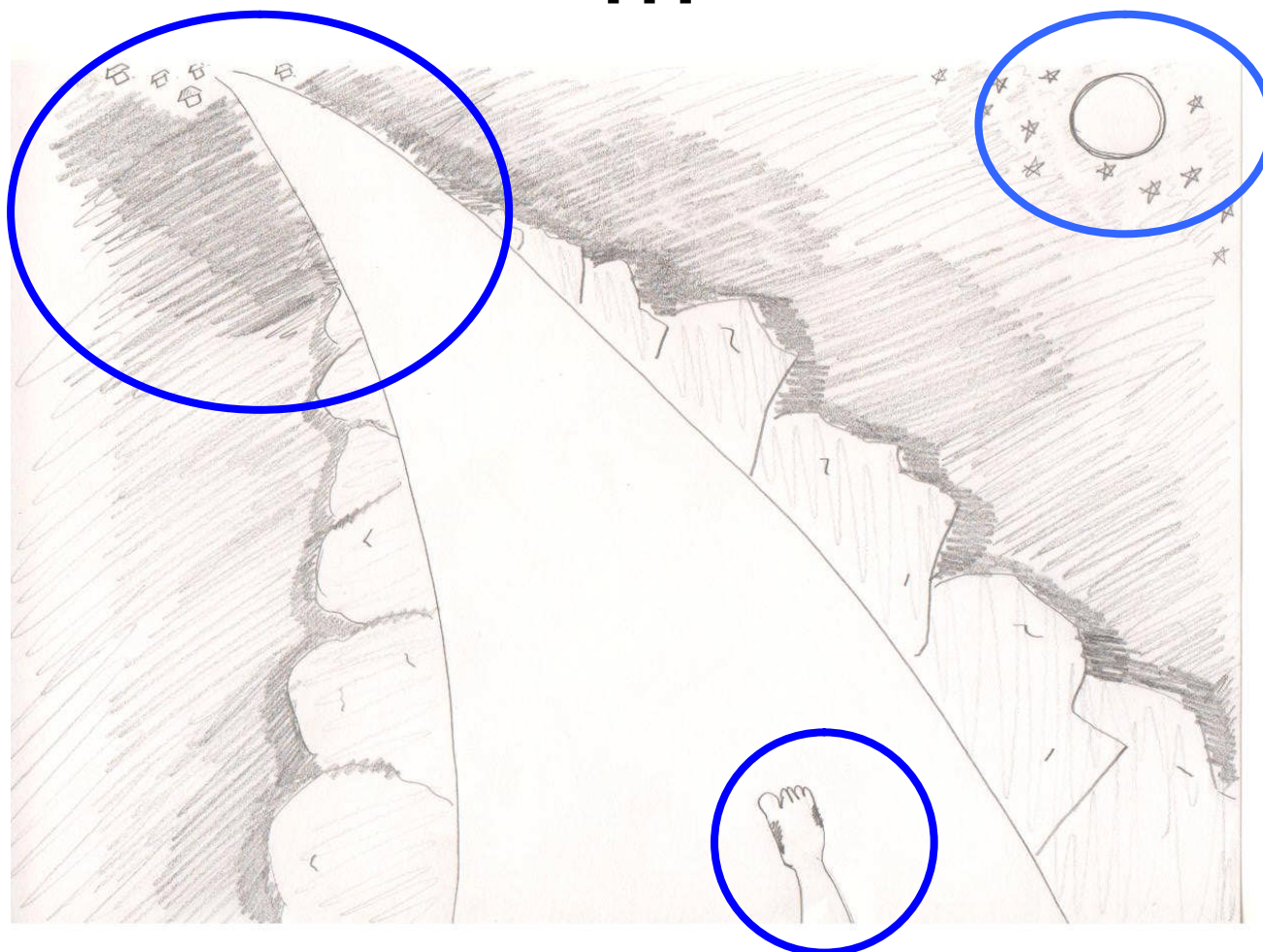
47足からは血が出た。

48豆太はなきなき走った。

49いたくて、さむくて、こわかったからなあ。

すると、こんな絵になります

...

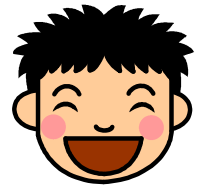


語り手は豆太と考えています！

さし絵を基に、それぞれの読みを交流すること

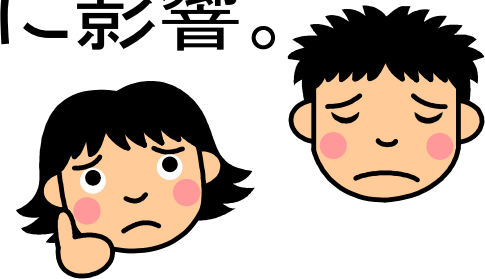
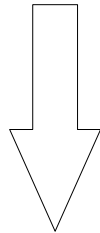
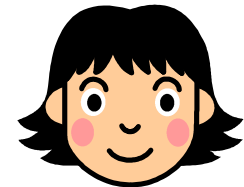
メリット

- ・読みの違いの手がかりとして、絵を活用。



デメリット

- ・絵に表せる技術の差が、交流に影響。

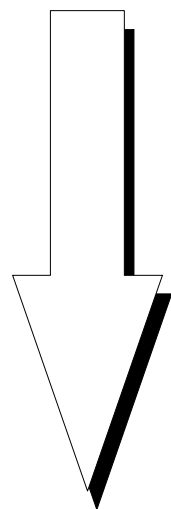


教科書の本文とさし絵を別に見せ、

叙述に即したものを選ばせる

教師が語いを分析することが...

☆ 読み手の読み方のちがいを把握



読む能力

- ・どの叙述に基づいて読みを作るのか。
- ・どのような読みをするのか。

単元を作る上でのポイントを把握

学習のデザイン（発問・交流場面）

授業の複線化

参考文献

- ・『みんなと学ぶ 小学校国語3年上』(学校図書)
- ・『小学校学習指導要領解説 国語編』(文部科学省)
- ・松本修『文学の読みと交流のナラトロジー』(東洋館出版)
- ・野村真木夫『日本語のテクストー関係・効果・様相ー』(ひつじ書房)
- ・斎藤隆介『モチモチの木』(岩崎書店)
- ・松本修「『白いぼうし』の語りと主題」グループ・ブリコラージュ『紀要 No.26 2008』
- ・松本修「池波正太郎『剣客商売』における語り」グループ・ブリコラージュ『紀要 No.21 2003』